

吹奏楽・陸上で東北大会出場



活躍を誓う中谷さん(前列左)、
吉田さん(前列中央)、竹内さん(前列右)

9月9日、北上市文化交流センター(岩手県)で行われた全日本吹奏楽コンクール第61回東北大会に出場した金木中学校の吉田優生さん(3年)、中谷舞乃さん(3年)と8月7日から北上総合運動公園北上陸上競技場(岩手県)で行われた第39回東北中学校陸上競技大会に出場した同校の竹内豪さん(2年)が8月6日、教育長を訪問しました。全日本吹奏楽コンクール第60回青森県大会では、中学校小編成の部で金賞を受賞。

吉田さんは「吹奏楽小編成の中で全国大会に値する東日本大会に出場するため、個人の技術を磨き代表枠上位4校に入れるように頑張ります」と話しました。また中谷さんは「23名全員で、会場に大きな音色を響かせるように頑張ります」と話しました。

陸上競技大会に出場した竹内さんは「先輩方の胸を借りるつもりで頑張ります」と話しました。

道の駅「十三湖高原まつり」が 開催されました



高原まつりの様子

8月26日、道の駅「十三湖高原まつり」が開催されました。今年で19回目の開催となるまつりは、野菜や焼きイカ、市浦牛の肉入りコロッケや牛串焼の販売のほか、陶芸品・木工クラフト・花卉など13店のブースが並びました。しじみのすくい取りのブースには、多くの人が並び、当たりくじの大スコップを引き当て鐘が鳴ると大きな歓声が上がっていました。また、みどりの風こども園あとむの園児の皆さんが鳴子を手にしてよさこい踊りを披露し、まつりを大いに盛り上げました。道の駅「十三湖高原」まつり実行委員会の八木澤淳会長は「まつりに来ていただいた方にはぜひ楽しんで帰ってもらいたいので、今後もいろいろな企画を考えてまつりを開催していきたい」と話しました。

斜陽館の来場者200万人達成



来場者200万人目となった津島さん(中央)

8月17日、五所川原市金木町の太宰治記念館「斜陽館」の入館者数が200万人を達成しました。200万人目となったのは、津島富さん(千葉県市川市在住)で今回、法要で帰省し、姪の倉内玉恵さん(さいたま市)と共に斜陽館を訪れました。

津島さんは、旧金木町の生まれで高校までは、斜陽館の近くに住んでいて旅館だった時期に宿泊したこともあるとの事でした。

記念品としてライトアップされた斜陽館のパネル写真と図録と花束が贈られた津島さんは「30年ぶりに斜陽館を訪れ、まさか自分が200万人目になるとは思ってもいなかったので大変びっくりしましたが、うれしいです」と笑顔で話しました。

キャラバン隊の皆さんが 交通安全を呼びかけました



交通安全を呼びかけるキャラバン隊の皆さん

8月30日、交通安全青森県キャラバン隊の皆さんがメッセージ伝達式のため、市長を訪問しました。

青森県交通安全母の会連合会の豊川幸子会長が、反射材用品の着用促進やシルバー交通安全サポート事業の実施により「安全で安心して暮らせる青森県」の実現に向けて効果的な交通安全対策をさらに推進してくださいと三村県知事からのメッセージを代読しました。

また、同日、金木小学校では交通安全教室を行い、1、2年の生徒の皆さんがシートベルトコンビンサー(エアバック装置)体験や白パイの乗車体験をしました。

豊川会長は「子ども達が今日体験したことを家族に話して交通安全の意識が高まっていくことを願います」と話しました。